

住宅から起因する健康に関わる知識を習得

健康住宅アドバイザー

住まい手目線の提案から信頼を獲得

24時間換気が点いていると煩くて、寒いので止めている——。これは24時間換気についてアンケートした結果のひとつだ。近年、住宅の高断熱・高気密などの高性能化に伴い、こうした生活行為の質間が消費者から増えている。ところがこの間違った結果が招くのは室内空気質の汚染であり、人の健康に関わる大きな問題なのである。

NPO法人日本健康住宅協会が展開する資格制度「健康住宅アドバイザー」は、住宅と健康に関する幅広い知識を集積できる資格として大いに役立つ。

試験は毎年3・7・11月の年3回公開形式で実施している。また、企業内や地域限定の検定方式で東京・大阪以外の地域でも受験できる。

試験項目は協会が発行する公式テキスト「健やか住まい方のわかる本」から出題。「爽やかな空気の住まい」、「穏やかな温熱の住まい」、「和やかな光視の住まい」、「静やかな音振動の住まい」、「堅実な防露の住まい」、「安心な防カビの住まい」、「健全な防虫の住まい」——の7章から出される。

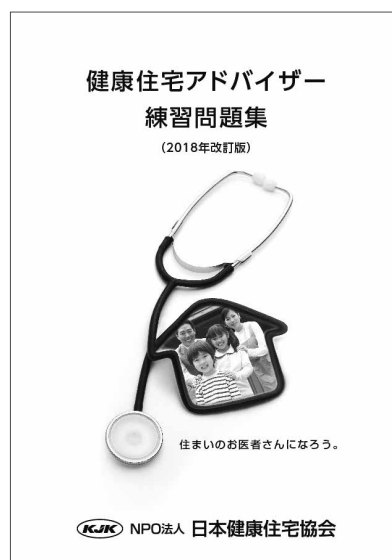
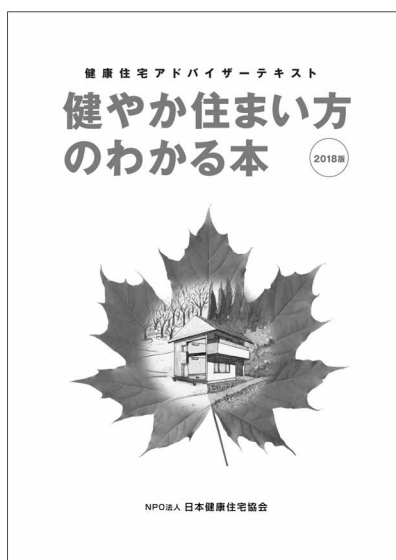
問題は正誤式で100問、選択式で21問、記述式6問の計127問となっている。合格点は100点換算で70点が目安となるが、出題数が多いため、時間(90分)配分が合否の鍵を握る。

そこで大切になるのが効率的な学習法だ。公式テキスト「健やか住まい方のわかる本」と「健康住宅アドバイザー練習問題集」を完ぺきに潰せば合格の道筋は見えるが、試験項目は広範囲に及ぶ。そこで用意されているのが受験対策講座だ。

ここでは①試験の傾向と対策②テキスト主要部分の解説③模擬試験と解答及び解説を合計4時間かけてみっちり教えてくれる。協会によると、受験対策講座受講者の合格率は95%。講座を受けていない人に比べ合格割合は2倍以上だ。

1万2000人の健康住宅アドバイザーが活躍

試験合格者は同協会に健康住宅アドバイザーとして登録。これまでの資格者は全国で1万2000人に上る。資格



健康住宅アドバイザーのテキスト「健やか住まい方のわかる本」と練習問題集

取得の業種としては住宅・建設が最も多く全体の70%。内装・設備も8%占めている。職種では半数近くが営業系で、技術系も28%おり、顧客サービスも15%占めるなど幅広い。住宅メーカーの営業担当者は「健康住宅をつくる上では建物の構造性能のみでは必要不十分。①温度②湿度③空気の3つのリスクをコントロールすることが必須」と取得した理由を語る。

健康住宅アドバイザーになると、仕事などで活用するカード型の顔写真入りの資格証を携帯することができる。また、会社で使う名刺に資格登録番号の記載も可能になり、健康フォーラムと呼ばれるプレゼンシステムの利用やメルマガを通じて業界最新情報なども無償で取得できる。

上位資格として健康住宅スペシャリストや健康住宅ディレクターもあり、講師や執筆など新たなキャリア構築につなげることもできる。住生活業界に身を置く人にとって、取得して価値のある資格の1つだ。

■公開試験の概要

受験資格	年齢等の制限はない。誰でも受験可能
試験日程	3月、7月、11月の年3回
試験会場	東京、大阪(企業/地域限定も用意)
受験料	10,000円
登録料	10,000円 (登録7,000円(永久登録)/資格証交付料3,000円)
受験対策講座	5,000円(希望者のみ)

特定非営利活動法人 日本健康住宅協会

TEL:06-6390-8561(本部)、03-6869-5085(東京オフィス)
<http://www.kjknpo.com>